

北海道教育委員会「S-TEAM 教育推進事業」  
令和5年度（2023年度）授業研究セミナー

## 道南・英語 実施報告



令和5年11月17日（金）、北海道長万部高等学校を会場に「教科・科目における探究的な学び（主体的・対話的で深い学びの充実）」「ICT（一人一台端末）を活用した効果的な学習指導」をテーマとして道南・英語の授業研究セミナーを開催しました。道南ブロックの各管内から15名の参加がありました。

本講座の実施内容等を紹介しますので、授業改善の参考として御活用いただければと思います。

### 実施状況

#### 【学習指導案検討会】

本セミナーの研究授業の実施に向け、道立高校教諭4名、道教委指導主事・研究研修主事3名から成る「授業研究チーム」を編制し、オンラインで学習指導案の検討を3回実施しました。学習指導案検討会での協議の中心は、「探究的な学びの実践」「ICTの活用」「パフォーマンステストの内容」についてでした。

#### 【研究授業(実践発表)】北海道長万部高等学校 菊地 将矢 教諭

英語コミュニケーションⅠ“Lesson 9 Fighting Plastic Pollution”において、単元の目標を「プラスチックごみによる環境汚染問題とその解決に向けた取組に関する理解を通して、今後のプラスチック利用について多角的に考え、自分の意見をまとめて相手に話して伝えることができる。また、相手の意見を聞いて、内容や意図を目的に応じて捉えることができる。」、本時の目標を「自グループの立論に対する他生徒からのフィードバックを基に、ディベート本番に向けて取り組むことを明確にすることができる。」とし、研究授業を行いました。

この授業の中で、菊地教諭は、Jamboardを活用し発表者以外の思考を引き出したり、適切なヒントを与え生徒の積極的な発言を引き出したりし、活発な授業づくりに寄与していました。



[学習指導案リンク](#) QRコード



### 【研究協議】「指導案の改善、ICTの活用」

研究授業実施後に、上記を柱に研究協議を行いました。

参加者から、さらに生徒の発言を引き出す方法や、ディベートを授業に取り入れる難しさ、特に、話す生徒の姿勢だけではなく、聞く生徒の姿勢の育成、についての発言があったため、各グループにおいて日頃の実践を基に、それらについて協議をしました。



### 【参加者の声】

- ICTの実践を実際の授業参観という形で見させて頂き、本校での実践を具体的にイメージすることができた。
- 授業でのやり取りによって生徒の力を引き出したり深化させたりする好例を観られた。
- 授業者の大変きめ細やかな指導・支援から多くを学んだことはもちろんだが、それに加えて、単元のデザインや、生徒をより前のめりにするための工夫について、自分の取り組みを見つめ直すことができた。
- 大変有意義な時間だった。配布いただいた資料と授業がリンクしており、頭の中が整理された。また、協議の内容や時間も丁度良く感じ、学びの多いセミナーだった。
- 研究授業を見学させていただき、教師の役割や生徒への声かけ、関わり方など、大変参考になった。また、その後の研究協議の時間にも他校での実践例なども知ることができ、授業改善に向けてとても良い機会になった。

### 【アンケートの結果（一部）】

- 1 教科における「探究的な学び」又は「主体的・対話的で深い学びの充実」に関する理解は深まりましたか。
  - ・おおいに深まった 62.5%
  - ・深まった 37.5%
- 2 今回のセミナーの内容等は、あなたの授業において活用できますか。
  - ・おおいに活用できる 75.0%
  - ・活用できる 25.0%

### 【振り返り】

11月22日（水）、「授業研究チーム」7名及び参加者1名、計8名で、振り返りを行いました。最初に、それぞれから授業研究セミナーの感想をいただいたあと、「授業におけるハラハラ感（わからないことを意図的に与える）をどのように準備するか」「生徒がよりイキイキするための方法」について協議しました。

参加者からは、「菊地先生が実践していたJamboardを活用し、適切なフィードバックを与えること」や「ディベートにおいては、教師も生徒も、反論されることを前提とした準備や活用できそうな様々な根拠を準備すれば、ハラハラやイキイキにつながるのでは」という意見が出されました。